

『救い主復活の予兆』

’21/11/14

聖書箇所: マルコの福音書 16 章 1-8 節 (新約 p.102-)

この聖書の中には、神様による天地創造のエピソードから始まって…、神様が天からの火でもって、あのソドムやゴモラという町を滅ぼされたというような話…、あるいは、たった一晩で、家畜を含むすべての長子が亡くなってしまったこと…、また、イエス様や弟子たちがいろんな病を癒されたこと、また、一度死んだ者が生き返された！というようなものまで…、実に様々な奇蹟が記されています。…しかし、そういった中でも、1番の奇蹟はやはり、イエス・キリストの復活…、イエス様があの十字架の死から、敢然とよみがえられた！ということではないでしょうか？

命題: イエス様が復活される前には、どのようなことがあったでしょう？

今日のみことばは、そのイエス様の復活と言うか、厳密には、その“前兆”について教えてくれています。そこで、今日は、あのイエス様が復活されたお姿を現わされる前に、どのようなことがあったのか？ということについて学んでいきます。そうすることで、願わくは、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、イエス様の復活を歴史的事実として信じることができ…、そして、そのイエス様が与えようとしてくださっている救いを自分のものとすることができますように…、そして、ますます、この神様に期待を置いて、残された人生を歩んでいってくださいますことを願います。

I・イエス様を葬った墓の 異変 ! (1-4 節)

どうぞ、まずは、今回のみことばの内、1-4 節の部分を見ていきましょう…。このみことばは、あのイエス様のことを葬った墓に“ある異変”が起こった！ということを教えてください。まずは、そういったことを一緒に確認していききたいと思います。1-4 節には、このように記されています。

- 1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行くと思い、香料を買った。
- 2 そして、週の初めの日の早朝、日が上ったとき、墓に着いた。
- 3 彼女たちは、「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれがいるでしょうか」とみなで話し合っていた。
- 4 ところが、目を上げて見ると、あれほど大きな石だったのに、その石がすでにころがしてあった。

●イエス様の復活を知る 前兆 !

まずは、女性たちが、イエス様の復活を知る前に起こった“前兆”について見ていきましょう。どうぞ、この 1 節をご覧ください。ここ 1 節のみことばは、『安息日が終わった“ので”』ということで、①マグダラのマリヤと②ヤコブの母マリヤと③サロメという3人の女性が、なぜ、このタイミングで、イエス様の遺体を葬ったお墓へ向かったのか？という理由について教えてください。ちなみに、ここで言われている3人の女性に関しては、前回のメッセージの最後で簡単に学びました。まず、①マグダラのマリヤというのはルカ 8 章に出てきて、イエス様によって、悪霊を追い出してもらって以降、イエス様につき従ってきた、信仰的な女性です。②ヤコブの母マリヤとは、マルコ 15:40 にあるように、当時、初代教会で知られていたであろう、小ヤコブとヨセという人物の母親です。③サロメというのは、使徒ヤコブとヨハネの母親になります。先週に学んだみことばの1番最後であるマルコ 15:47 を見てみると、この3人の内、特に、①マグダラのマリヤと②ヤコブの母マリヤとは、イエス様があの十字架刑でお亡くなりになった後も、しっかりと、イエス様の遺体が葬られるところを見ていた…、“観察していた”ということが分かります。

皆さんもご存知のように、この当時のユダヤ人たちは、十戒の第4の戒めである、『安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。』(出エジプト記 20:8)という教えを堅く守って、今で言う土曜日に、神様を礼拝しておりました。彼らは、その戒めを厳格に守って…、その安息日には、如何なる労働もしない！例え、異邦人との戦があっても戦いをしない！という程でありました。旧約聖書を見る限り、「安息日を破った者は、殺されても文句が言えない！」と言い得るようなものであったのです(参考:出エジプト記 31:14)。

実は、その安息日とは、今で言うところの「金曜日の日没から、土曜日の日没まで」を言います。そのため、イエス様と強盗たちを十字架に付けた者たちは、早くに、イエス様と強盗たちに“死んでもらいたかった”わけです。…と言いますのは、イエス様と強盗たちが十字架に磔にされたのは“金曜日”だったので、その日没までに彼らが亡くならないと、その日没から、「いかなる労働もしてはならない！」という安息日が始まってしまうからです。そのために、彼らは、強盗たちの足のすねを折ったわけです。…と言いますのも、足のすねを折ると、十字架に磔にされた者たちは、足で自分の体重を支えることができなくなって、急速に、その体力を失っていったからです。

しかし、先週の礼拝で学んだように、イエス様の場合には、足のすねを折られることはありませんでした。それは、どうしてでしょう？⇒…それは、①イエス様が、もう既に亡くなっておられたからという理由と…、②しかも、イエス様は、あの旧約聖書で教えられてある「過越の子羊」であったので、「その骨を折られてはならない」というような存在であったからです。…でしたよね？

実は、この当時、亡くなった者たちに油と言うか、香料を塗るというようなことは、割と頻繁に行なわれていたようです。…だから、皆さん覚えてくださっています？マルコ 14 章で学んだように、あの時、バタニヤ村のマリヤは、300 デナリもの『高価なナルド油』をイエス様の頭に注いだ！というようなことがあったでしょう？…あの時、イエス様は、こうおっしゃいました。マルコ 14:8、『この女は、自分にできることをしたのです。“埋葬の用意に”と、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。』って…。

このように、当時、亡くなった者たちに、油を注ぐということは、決して珍しいことではありませんでした。だから、ヨハネ 19 章を見てみると、実際、イエス様を葬った時の様子が、このように記されています。『39 前に、夜イエスのとくろに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。40 そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料とじっしょに亜麻布で巻いた。』(ヨハネ 19:39-40)って…。

ここで言われている『ニコデモ』というのは、ヨハネ 3 章で登場している、あのニコデモです。正直言って、彼が信仰を持って救われたかどうか…、クリスチャンになったかどうかについて、聖書のみことばは、はっきりと教えて“は”いません。…しかし、ここでの状況を見ると、ひょっとしたら、彼も、この時には、イエス様のことを真の救い主と信じて、救われていたのかも知れません…。

ま、こういったことから分かることは、確かに、イエス様を葬った時も、ある程度の香料が使われていた、ということです。しかし、マグダラのマリヤたちは、「もっと、イエス様のご遺体に油を塗ってあげたい！」ということで、『週の初めの日の早朝』、つまり、日曜日の朝早くに、イエス様のお墓へ行ったのです。…確かに、厳密には、安息日が終わったのは、当時の習慣で言いますと、土曜日の日没ですが…、しかし、今のうちに、懐中電灯や LED 照明が無い時代です。真っ暗な中で、大きな石をどけたり、また、墓の中に居ながらにして、イエス様の遺体に油を塗ることは、まず考えられません。そこで、彼女たちは、夜が明けた…、日曜日の早朝に、イエス様のお墓に行ったわけで…、こういったことから、彼女たちの“献身的な信仰”を垣間見ることができます。

実は、ルカ 24 章のみことばを見てみますと、この時、イエス様のお墓に向かっていた女性たちは、最低でも5人は居たことが分かります。…しかし、今日のみことばの 3 節に、『彼女たちは、「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか」とみなで話し合っていた。』とありますので、この時、イエス様の墓にされていた封印の『大きな石』とは、女性たち5人では、到底、動かせないような、大きな物であったことは間違いありません。…しかし！ そんな大きな石が、何と、マグダラのマリヤたちがイエス様のお墓に着いた時には、もう既に、動かされてあった！ というのが、ここ 4 節までのみことばが教えてくれている内容です。

●あなたの身にも 起こる こと＝試練や混乱、予期しないこと

さて、ここのみことばから、私たちは何を…、また、どんなことを学ぶことができるでしょうか？ 確かに、私たちも皆、この女たちと状況は違っていても、予想もしていなかったようなことを経験します。そうですね？ そういったような時、私たちは、どのようにして、その状況を受け入れ…、あるいは、与えられた困難を乗り越えていくべきなのでしょう？

その秘訣は、もう既に、皆さんもご存知だろうと思います。例えば、聖書のみことばは、こんな風に教えてくれています。ローマ 8:28、『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』⇒天の神様は、すべてのことを御支配なさっておられます。私たちはその神様と、かつては、敵対関係にありました。しかし、今、私たちは、その神様と和解することができ…、その神の子とされたのです。だから、イエス様も、『…だから、あすのための心配は無用です。』（マタイ 6:34）と教えてくださったわけでしょう？

『16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 すべての事について、感謝しなさい。…』（1 テサロニケ 5:16-18）⇒これこそ、天の神様が私たちクリスチャンに対して願っておられる生き方じゃないですか！ 私たちは、すべてのことを全能者なる神様にお委ねして、感謝と平安の内に生きていくことができるのです。問題は、私たちが神様のみことばに信頼して…、神様にすべてをお委ねして生きていこうとするかどうか、ではないでしょうか？

確かに、私たちの周りでは日々、様々なことが起こっています。…例えば、親しい者の病気や死、あるいは、自分自身に与えられた試練や様々な困難など…。皆さんは、そういったものを、どのように受け止めておられます？ 例えば、イエス様が、この地上におられた 2000 年前の当時も、理解に苦しむような、たくさんの事件や事故が起こりました。例えば、それは、ピラトによるガリラヤ人たちの虐殺？ であり…、あるいは、シロアムの塔が倒れた事故などです。でも、そういったことを通して、イエス様は、どんなことを教えてくださったでしょう？

ルカ 13:1-5、『1 ちょうどそのとき、ある人たちがやって来て、イエスに報告した。ピラトがガリラヤ人たちの血をガリラヤ人たちのささげのいけにえに混ぜたというのである。2 イエスは彼らに答えて言われた。「そのガリラヤ人たちがそのような災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったとも思うのですか。3 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。4 また、シロアムの塔が倒れ落ちて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも罪深い人たちだったとも思うのですか。5 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。』

⇒ここで、イエス様は、「何らかの災害に遭った者たちは、特別罪深かったから被害を受けたのではない！ 私たちも悔い改めないと、皆同じように、神の裁きを受ける！ …同じように滅ぼされてしまう運命にある！」ということを見せてくださったんじゃないですか？ そうでしょ！

私たち人間は、一寸先に何があるか知る術がありません。…ひょっとしたら、今日か明日、大きな事故や災害を経験するかも知れません。だから、私たちは、一刻も早く、悔い改める必要があります！ …と言いますのは、悔い改めこそが、私たちを罪の裁きや永遠の滅びから救ってくれる…、たった1つの道であり、今敵対している真の神様と和解できる唯一の方法だからです！ …今日は、時間の関係もあって、詳しく説明できないので申し訳ありませんが、私たちの教会では、本物の悔い改めイコール、本物の信仰であると理解しています。悔い改めと言うか、イエス様を信じる信仰こそ…、私にも、また、あなたにも、最も必要なものなのです…。

II・御使いの 出現 ! (5-7 節)

その次に、どうぞ、今日のみことばの内、5-7 節の部分をご覧ください。このみことばは、イエス様の復活に先立って、御使いが“出現”した！ ということを教えてくれています。そこには、このように記されています。

- 5 それで、墓の中に入ったところ、真っ白な長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。
- 6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。
- 7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』とそう言いなさい。」

●御使いが 気づかせて くれたこと！

さて、今読んだみことばにありましたように、イエス様の墓にやって来て、イエス様の遺体に香料や香油を塗ろうとしていた女たちは、非常に困惑をします。…と言いますのは、そこにあるはずのイエス様の遺体が無いし…、しかも、そこには、この世の者とは思えない不思議な人物が居たからです。今日のみことばによりますと、その人物は、『真っ白な長い衣をまとった青年』とあります。今日のみことばの平行記事を見てみますと、この人物が御使い…、つまり、天使であったことは間違いありません。

その御使いを見た女たちは、驚きます。すると、御使いは、こんなことを言うのです。今日のみことばの 6-7 節、『6 …驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。7 ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』とそう言いなさい。』って…。

どうか、皆さん。私たちが少し前に学んだ、マルコ 14 章のみことばを思い出してみてください。あそこで、イエス様は、「最後の晩餐」の後、弟子たちにこんなことをおっしゃられました。マルコ 14:26-29、『26 そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリブ山へ出かけて行った。27 イエスは、弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊は散り散りになる』と書いてありますから。28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとい全部の者がつまずいても、私はつまずきません。」』とあります。実は、これと同じことが、マタイ伝にも記されています。

このように、イエス様は、予め、ご自分が苦しみを受けられること、また、その苦しみのゆえに殺されてしまうこと…、そして、その後、よみがえられることや、よみがえられた後にはガリラヤへ行く！ というなどを教えておいてくださったのです。…なのに、弟子たちは皆、そういったことを忘れてしまっていたのです。

ここで、御使いは何を言っているのでしょうか？…それは、「イエス様のお言葉を思い出しなさい！ イエス様は、前もって、ご自分が殺されることも、よみがえられることも…、また、ガリラヤへ行かれるということも、あなたたちに教えてくださっていたでしょう！」ということです。…でしょ？

● 私たちに 必要 なこと＝みことばに対する正しい理解やバランスの取れた学び

このように、イエス様は…、また、聖書のみことばは、多くの場合、私たちに様々なことを“前もって”教えてくださっています。だから、私たちは、神様からのお言葉である、この聖書のみことばに耳を傾けること…、みことばを学んでいくことが“必要”なのです！

もう皆さんは、あまり覚えておられないかも知れませんが…、今から7年程前、神戸市で、小学1年生の女の子が殺されて、無残な姿で発見されるという、大変痛ましい事件が起こりました。その後、警察は容疑者として、「君野康弘(きみの やすひろ)」という人物を逮捕、送検しました。この事件の報道で、その容疑者が逮捕される3日前に、神戸市内の教会に「アオキ」という偽名を使って、礼拝に出席していたことを、皆さんはご存知でしょうか？その時に、その教会の牧師は、彼に、こんなアドバイスを語ったのだそうです、「人間が神様に背いた罪とか不義に対して、必ず裁きが訪れる！」って…。すると、それを聞いた人物は、牧師先生曰く、「大変、落ち着かない様子で、顔とか手とかが震えていた…」ということだったようです。

この報道を聞いて、私が感じたことは…、近年、教会にあって、耳触りの良い…、調子の良いことばかりを語る教会や教師が多い中において、その教会は、彼に対して1番必要なことを語ってくれた！ということです。ひょっとしたら、別の教会に行けば、「大丈夫ですよ。神は、どんな罪だって赦してくださいませよ…」なんてことを、その牧師は語ったかも知れませんが…。それだって、嘘や間違いではありませんよね？むしろ、真実じゃないですか！…ひょっとしたら、この容疑者は、そういった言葉を聞きたくて、キリスト教の教会を訪れたのかも知れません。でも、それは、ある意味、偏ったみことばの学び方であって…、正しい、バランスの取れた聖書理解ではありません。

感謝なことに、私たちに、すべてを御存知の神様が記してくださった、この聖書のみことばがあります。この聖書のみことばには、私たちが知るべき、ありとあらゆる教えや実践すべき原則が教えられているのです。だから、皆さん、覚えてくださっています？Ⅱテモテ3:16-17には、どう教えられておりました？『16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。』

⇒このみことばは、特に、16 節が有名で、16 節だけが強調されて終わってしまう場合があるのですが、でも、17 節も、とても大切なことを教えてくれています。ここで教えられてありますように、私たちが、神の働き人として、『すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるため…』に必要なものは何だと教えてくれていますか？

⇒それは、聖書のみことばです！…しかも、ここには、『聖書はすべて…』とあるわけで、私たちに必要なのは、様々な「教え」の一部分だけでなく…、戒めも！矯正も！義の訓練も含めて…、私たちはバランス良く、聖書のみことばを学んでいくが必要なのです。

皆さんも、そうでしょ！…皆さんだって、ほど良く成長することや、健康を維持しようとしたら、バランス良く食べることを心掛けたり…、あるいは、食生活だけじゃなくて、適度な運動や睡眠などを考えられるでしょ？…それと同じように、クリスチャンとしての私たちも、バランスの取れた聖書理解、また、聖書の学びだけでなく、厳しいことが書かれてある戒めや、曲がったところを真っすぐに直すための矯正や、地道な義の訓練なども決して欠かすことができないのです！

今、多くの教会では、聞いていて耳に心地良いような…、神の愛に関するメッセージや、「あなたには高価な宝石ほどの価値があるから救われたんですよ！」というような、心地良い教えばかりを教える傾向にあります。もちろん、そういった学びは必要です！それが、ちゃんとしたみことばに適った教えであれば…しかし、お肉ばかり食べていて、私たちは、バランス良く成長できるでしょうか？あるいは、好きなものばかり食べていて、健康を維持できるでしょうか？…だから、私たちは、いろんなみことばをバランス良く学び…、また、そういったことをえり好みすることなく、実践していくことが必要なのです。また、あのイエス様だって、**マタイ 28:20** で、**弟子たちに何と教えてくださいました？『また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。…』**って…。果たして、皆さんは、聖書のみことばをえり好みすることなく、バランス良く学んでおられるでしょうか？どうか、そういったことを、皆さんご自身でも考えていただきたいと思います…。

Ⅲ・女たちの 動揺 ! (8 節)

どうぞ、最後に、今日のみことばの 8 節をご覧ください。そのみことばは、**当時、イエス様のお墓を訪れた女性たちが、かなり“動揺”していた！**ということを教えてくれています。そこには、このように記されています。

8 女たちは、墓を出て、そこから逃げ去った。すっかり震え上がって、気も転倒していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

● 御使いの言葉を聞いた女たちが起こした 行動 !

このみことばを読んでみますと、この時、イエス様の墓を訪れた女たちは、①そこに、イエス様の遺体が無かったこと、また、②御使いを見たことで、すっかりと動転してしまったことが分かります。…そのため、彼女たちは、恐ろしさのあまり、すぐに行動できなかつたようです。しかし、ルカ伝を見ると、この女性たちは、そのすぐ後で落ち着いてから、7 節にあるように、御使いに言われたことを弟子たちに伝えた！ということが分かります。

ここで少し話が逸れるように思われるかも知れませんが、実は、「マルコの福音書」の写本…、特に、古くて権威ある写本のシナイ写本やヴァチカン写本などの、有力な写本はここ 8 節で終わっているようで…、「9-20 節の部分は2世紀になってから書き足されたことがほぼ間違いない！」ということが分かっているのだそうです。そのため、多くの聖書研究者たちは、果たして、マルコ伝は、①意図して、ここで終わっているのか？あるいは、②マルコが健康を崩したか、あるいは、迫害などで、最後まで書き記せなかったのか？あるいはまた、③書かれたものが、破られたとか、何らかの理由で失われてしまったのか？ということの研究してきましたが、今に至るまで分かっておりません…。

正直、私としては、もちろん、分かりませんが…、しかし、マルコが、この福音書をここまで記してきて、最後の最後、イエス様の復活という“クライマックス”を書き記すことなく…、しかも、ここマルコ 16:8 で、こんなにも唐突に終わっている！しかも、それが、マルコの福音書の意図された終わり方であるとは到底信じられません。…なので、ここマルコ 16:8 以降は、神様のみことばの内に、何らかの理由によって、失われてしまったのだと考えています。だから、きっと、後代のクリスチャンが、その「失われた部分」を補おうとして、9 節以降の部分を書き足したのではないのでしょうか？

そこで、来週の礼拝では、マルコが書いた部分では、恐らく、ないはずなので…、厳密には、「神様のみことば」とは言い得ませんが、そこから、ご一緒に学ぶ時を持ちたいと思います。…正直、私自身も、この部分を学ぶことが、聖書的に正しいかどうか考える部分があったのですが、でも、今日、この部分

までで、マルコの福音書の学びが終わってしまうのも、どうかと思ひまして…、ある意味、聖書の外典を学ぶような感覚で、できれば、来週は、ここマルコ 16:9 以降の部分を読んでいきたいと思ひます。

しかし、今日のところは、かなり中途半端ではありますが…、ここ 8 節までのみことばから、イエス様の復活を知ったと言うか、そのことを御使いから聞いて、何人かの女性たちが驚き…、恐ろしかったという部分までで、神様の偉大さというものが、私たち人間には及びもつかないほど、偉大で…、かつ素晴らしいものである！ということ、私たちは理解すべきであります…。

●イエス様が復活されたかどうかの 検証 !

今日のみことばには記されてありませんが、でも、今日の平行記事と言うか、その直後のことが、マタイ 28 章では、このように記されてあります。マタイ 28:8-15、『8 そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。9 すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。10 すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。12 そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、13 こう言った。『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った』と言うのだ。14 もし、このことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。』15 そこで、彼らは金をもらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。』って…。

⇒かつての私は、教会に来る前までは、何となくですが、ここに書かれてあるように、「イエス様が復活された」とされているが、きっと、それは弟子たちがイエス様の遺体を盗んで、それを復活した！と吹聴しているのでは？」というように考えていたように思ひます。

つい最近、私たちの教会が発行した「Good News」の第8号でも、そういったことについて触れていますが…、もしも、弟子たちが、イエス様の遺体を盗み出したのなら、じゃあ、何故、その時、弟子たちは誰一人捕らえられなかったのでしょうか？…あるいは、「眠っている間に、遺体が盗まれたのなら、どうして、その犯人が弟子たちであると分かるのでしょうか？」…正直、私などが思ひますのは、「果たして、イエス様が捕らえられた時、全員、逃げ出してしまったような…、あのような弱虫だった弟子たちが、たった1ヵ月やそこらで、いのちをも恐れぬような勇敢な者に変えられて…、その後、イエス様の十字架での死と復活とを、大胆に宣べ伝えていけるか！」ということです。…いいえ！そんなことは到底考えられません！

また、イエス様の弟子たち以外の誰かが、イエス様の遺体を盗み出したのでしょうか？…それも、考えられません！…と言ひますのは、イエス様は予め、「わたしは十字架での死後、3日目によみがえる！」ということをおっしゃっておられたわけで、そのことを警戒した祭司長たちが、わざわざ、大きな岩をイエス様の墓に封印として置いて、しかも、その墓には、ローマ兵たちを番兵として置いたのです。…にも関わらず、イエス様の遺体は無くなってしまいました…。果たして、この当時、そんな状況の中で、イエス様の遺体を盗み出せるような者が居たのでしょうか？…それも正直、考えにくいと言ひざるを得ません…。

その後、イエス様の弟子たちは、大胆に、イエス様の復活を宣べ伝えていきます。しかし、この当時、誰も、イエス様の遺体を出してきて、弟子たちの宣教が嘘っぱちであると否定することができませんでした。だから、今に至るまで、イエス様の復活が、キリスト教の主要な教えとなっているわけです！

<励ましの言葉>

残念ながら、私も、まだ、イエス様の復活を信じておられない皆さんに、イエス様が復活された！という、聖書のみことば以上の証拠を提示することができません。しかし、天の神様は、「もう十分だ！」とおっしゃると思ひます。…と言ひますのは、最後、神様を信じるか否か？イエス様は、本当の救い主かどうか？それを決めるのは、皆さんご自身だからです！

神様が、私たち人間に与えてくださった救いの道…、それは、「信仰」という道であります。信仰というものは、何もかも…、第三者が皆さんに提示できるものではありません。そうでしょ！…もしも、私が今、イエス様こそが真の神であられ…、私たちに与えられた唯一の救い主であられる！ということ、様々な証拠を出してきて、はっきりと証明できたとしたら、それは、もはや信仰とは言ひ得ません！

天の神様が私たちに与えてくださった救いの方法は、そういったようなものではなく…、あなた自身も、積極的に考えて…、あなたが、しっかりと様々な証拠を検証してみても…、神様のお言葉である聖書を、真剣に学んでみて…、そこで、ようやく、信じられるようなものとなっています。だから、この聖書のみことばが教えてくれている信仰というものは、それを真剣に追い求めようとする者にしか持ち得ないのです！…まさしく、イエス様がおっしゃられたように、「耳のある者は聞きなさい！」という教えの通りです！

皆さん、覚えてくださっています？…イエス様のご降誕された時、時の祭司長たちや学者たちは、「救い主がベツレヘムで生まれる」という旧約聖書の預言を知っていながら、誰一人、ベツレヘムまで行って、そのことを確認しようとする者はおりませんでした。知っています？…実は、エルサレムからベツレヘムまでは、たったの 8-10km ほどの距離しかありません。歩いて行っても、数時間ほどの距離です！…にも関わらず、祭司長や学者たちは誰も、ベツレヘムまで行くことはしなかったのです！

イエス様の復活にしても同じです。当時の祭司長たちは、下手な裏工作をする余裕があったのなら、実際に、弟子たちのところへ行くか、あるいは、ガリラヤへ行けば、復活したイエス様に会えたかもしれないのです！…しかし、これまた、祭司長たちは誰一人として、“労して”、その事実を確認しようとはしませんでした…。

今日、私がぜひ、皆さんにお勧めしたいことは、どうか、皆さんが真剣になって、この聖書のみことばを学んで、そこで教えられてあることが真実か否か？私たちの造り主なる神様が、本当におられるのかどうか？を皆さんご自身で確認していただきたい！ということです。

イエス様は、「山上の説教」で、こう教えてくださいました。『7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたき者には開かれます。』(マタイ 7:7-8)って…。ここで言われていることは、「何でも、欲しいものがあつたら、諦めずに祈り続けなさい！」ということではありません。ここで言われていることは、「霊的な成長に関すること」です。…もしも、皆さんが真理を知りたい！ということで、真剣に、そのことを探し求められるなら、天の神様は、間違いなく、あなたに真理を…、救いの道を示してください！だから、どうか、真剣に探し求めてみてください。求め続けてください！

また、クリスチャンの皆さん…。皆さんも今、救われて以降、真剣に、神様のみことばを求め…、そこに解決を見出そうとしておられます？…もしも、私たちが聖書以外のところに解決を見出そうとしているのなら、それは、未信者とも何変わらないのではないのでしょうか？…どうか、(聖書を持って)この聖書にこそ、解決の道があるということ、信じて、みことばを学び…、ある意味、神様と格闘する者であっていただきたいと思ひます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。